

# 「大坂の史跡を訪ねて」連載8回目

～大坂城周辺～その3

おさ たに よし じる  
長谷吉治

## 大坂城

大阪市中央区大坂城1-1

大阪のシンボルとして親しまれている大阪城を今回は取りあげたいと思います。

史跡だけでなく事件なども取りあげながら時代順にご紹介してまいります。



## — 浄土真宗総本山 石山本願寺跡 —

明応5年(1496)本願寺8代目法主蓮如が82歳の時、石山御坊という隠居寺を建てたのが始まりです。この地は『摂州東成郡生玉之庄内大坂』といわれていましたが、工事の際巨石がごろごろ出てきたので「石山」という名をつけたと記録に残されています。山科本願寺焼き打ち事件が起こり、本坊をここ石山に移され、石山本願寺と呼ばれるようになります。山科の焼き打ちの事があり、徐々に寺が城郭のようになっていきます。11代目法主顕如の時、織田信長から石山本願寺の明け渡しを要求され、元亀元年(1570)9月、ついに11年間に及ぶ石山合戦が始まります。

天正8年(1580)信長に降参、明け渡し直前に不審火により3昼夜にわたり炎上し灰となってしまいました。この石山本願寺のあった場所は正確には判明していませんが、今の大阪城天守閣がある場所より少し離れており、NHK大阪の東南辺りと見られています。

### <関連の史跡紹介>

- ①『蓮如上人直筆 南無阿弥陀仏碑』
  - ②『蓮如上人碑』
  - ③『蓮如上人袈裟懸の松』
- 場所 大阪城玉造口を入り  
梅林沿い内堀手前
- ☞袈裟懸の松は明治18年に枯死しています。

蓮如上人直筆の松説板



蓮如上人直筆の碑



蓮如上人碑



石山本願寺推定地の碑と説明板

- ④『石山本願寺推定地』 場所 大阪城桜門外西、修道館前
- ⑤『石山本願寺墓地跡』 場所 大阪市城東区森ノ宮1・2丁目  
☞練兵場工事の折、石像や石碑が出土されています。
- ⑥『石山本願寺の鐘』 場所 『定専坊(じょうせんぼう)』 大阪市東淀川区豊里2丁目  
☞石山合戦の終結の折、活躍した定専坊の3代目了顕が、石山本願寺の釣り鐘を持ち帰りました。石山本願寺の数少ない遺跡物です。

- ⑦『蓮如上人像』

場所 『西本願寺津村別院(北鯉)』  
大阪市中央区本町4-27

☞上記ご紹介した蓮如上人の銅像が北御堂にあります。



北御堂にある蓮如上人像

## 一 初代大坂城主 織田信長 一

天正8年(1580)8月石山合戦に勝利した織田信長は、天下第一の城を築くべく重臣 丹羽長秀、織田信澄に工事を始めさせます。

天正10年(1582)6月本能寺の変で明智光秀に襲撃され最期を遂げるまでこの城主は織田信長でした。つまり大坂城の初代城主は、織田信長ということになります。



### <関連の史跡紹介>

- ①『織田信長本陣跡（旭神社内若宮八幡宮）』 **場所** 大阪市平野区加美正覚寺1丁目  
 天正5年ごろ石山攻めの為、信長がここに本陣を敷いています。

## 一 太閤秀吉の大坂城 一

本能寺の変後、すぐに山崎の戦いにより明智光秀を敗った羽柴（豊臣）秀吉は、信長の重臣だった池田恒興をとりあえず大坂城主に起用します。大阪城主としては2代目となります。池田恒興は修復工事をしなかったようです。秀吉は、柴田勝家を敗ると名実ともに信長の後継者となり、天正11年(1583)9月、池田恒興を大垣に移封させます。そして秀吉が大坂城主（歴代3代目）になり安土城のような巨城を築き始めます。

天正13年(1585)には第一期工事終了。秀吉が病没する慶長3年(1598)に大坂城外郭工事終了となっており、想像を絶する程の力のいれようでした。

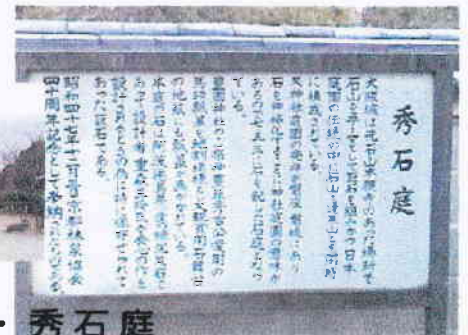
秀吉の大坂城は、本丸（五層の天守閣）、山里曲輪（茶室がいくつもあり千利休が腕を振る）、二の丸（後に徳川家康が本丸に劣らない天守閣を建て）、三の丸（国立大阪駅の裏側あたり）からなっており、今の大阪城よりも数倍広大なものでした。

本丸は現在の天守閣の場所とは若干異なり、北東約100mのところにあったそうです。秀吉の死後、豊臣秀頼が跡を継ぎます。（歴代4代目城主）一方徳川家康は征夷大將軍となり幕府を開き、元和元年(1615)大坂の夏の陣を迎えます。徳川軍に敗れた豊臣秀頼、淀君は城内で自刃し豊臣氏は滅亡。そして豊臣氏の大坂城も落城炎上します。

### <関連の史跡紹介>

- ①『豊国神社』 **場所** 大阪城大手門より少し入ったところ

豊臣秀吉・秀頼・秀長を祀っている神社。  
 戦前は豊臣秀吉の銅像がここにありましたが、供出のため姿を消したまま今に至ります。  
 境内に「秀石庭（しゅうせきてい）」という庭園があります。



豊国神社・秀石庭

- ②『秀吉木像』

**場所** 大阪城天守閣内の展示コーナー

衣冠を正した座像。全国に4体しかない木像のうちの1つ。

- ③『秀吉木像』 **場所** 大阪市天王寺区夕陽丘町（口縄坂を登りきった最初の左のお寺[珊瑚寺]）

「大坂の史跡を訪ねて」の連載3回目（会報73号）で少し触れましたが、太閤ゆかりの寺として有名な『珊瑚寺』にも秀吉57歳像が安置されています。

- ④『豊臣秀頼 淀殿ら自刃の地碑』

**場所** 青屋口から極楽橋を渡り石段を登ったあたり

山里曲輪だったこの地で、  
 豊臣秀頼・淀君が自刃しました。

- ⑤『伝淀君墓』 **場所** 大阪市北区太融寺町 太融寺内

淀君のお墓と伝わる石塔があります。

- ⑥『淀君之霊碑』

**場所** 大坂城公園ピースおおさか付近（城中焼亡埋骨墳碑の隣）

南無妙法蓮華経という題目の下に「淀君之霊」と書かれた碑が、城中焼亡埋骨墳碑の隣に建っています。

淀君は豊臣秀頼の母であり織田信長の妹お市の方の長女です。



豊臣秀頼 淀殿自刃の地



淀君之霊碑



⑦『秀吉の正室 北政所（ねね）住居跡』

場所 西の丸庭園

今の西の丸庭園のあたりにありました。

⑧『真田出丸跡』

場所 大阪市天王寺区真田山町（真田山公園あたり）

大坂冬の陣の折、真田幸村が築いた出城。徳川軍を寄せつけませんでした。近くに三光神社があり、そこには「抜け穴跡」「真田幸村像」があります。

真田幸村像



西の丸庭園

⑨『千 利休顕彰碑』

場所 大阪市中央区玉造2丁目（玉造稻荷神社内）

千 利休の屋敷がここにあったといわれます。

千 利休 邸跡

⑩『越中井（細川越中守忠興屋敷跡）』

場所 大阪市中央区玉造2丁目

屋敷内にあった井戸が残っています。近くに「越中公園」もあります。細川忠興の妻たまは明智光秀の娘でキリシタンでした。関ヶ原の合戦（年々400周年あたり）の前、石田三成が人質にしようとしたところ自殺しました。細川ガラシャの石像が近くの聖マリア大聖堂の中にあります。

細川越中守忠興屋敷跡



⑪『豊臣秀頼寄進の鳥居』

場所 大阪市中央区玉造2丁目（玉造稻荷神社内）

慶長8年3月吉日の銘のある鳥居がりましたが、阪神大震災で亀裂が入ったため平成8年解体されました。今は上部のみ残されています。

豊臣秀頼寄進の鳥居



⑫『大坂城内武家屋敷跡』

場所 大阪市中央区北浜東（府立労働センター）

各大名の武家屋敷がこの地にありました。

⑬『背割（太閤）下水』 場所 (説明がある) 大阪市中央区農人橋1-3 (南大江小学校外壁)

秀吉の大坂築城時に作られた石積みせわりの下水で、この付近の下水を東横堀川へ流していました。建物と建物が背中合わせになっているところから、或は太閤秀吉にちなんで太閤下水と呼ばれています。現存する最大の箇所は、幅1.8m 高さ1.35mあり今日でも立派に役割を果たしています。



豊臣期の天守閣跡地



豊臣秀吉像